

改訂新版 建設省河川砂防技術基準(案)同解説
(平成9年10月16日第1刷発行) 正誤表

調査編

誤

正

64 p. 上から4行目, (式4-2) 右
(平成10年3月10日第3刷で訂正)

$$\sqrt{V} \sqrt{\frac{1}{N-1} \sum_{i=1}^{i=N} (xi - x)^2}$$

$$\sqrt{V} \sqrt{\frac{1}{N-1} \sum_{i=1}^{i=N} (xi - \bar{x})^2}$$

85 p. 下から7行目, (式5-6)
(平成10年3月10日第3刷で訂正)

$$E = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n \frac{\{Q_o(i) - Q_c(i)\}^2}{Q_{op}}$$

$$E = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n \left\{ \frac{Q_o(i) - Q_c(i)}{Q_{op}} \right\}^2$$

546 p. 下から3行目, 式
(未訂正)

$$I \times \left(i \frac{i}{(1+i)^n - 1} \right)$$

$$I \times \left(i + \frac{i}{(1+i)^n - 1} \right)$$

計画編

誤

正

19 p. 下から10行目, 特に急傾斜面流域
(平成10年3月10日第3刷で訂正)

30 min

20 min

設計編 [I]

誤

正

24 p. 上から25行~29行, 「なお, ..せん断力 τ としているものである。」
(平成10年8月30日第4刷で訂正)

削除

28 p. 表1-5 レーンの加重クリープ比
(平成10年8月30日第4刷で訂正)

中砂利 4.0

中砂利 3.5

40 p. (1) ③ 帰流: 3行目,
(未訂正)

「が弱いものとで…」

「が強いものとで…」

42 p. 上から20行目, (平成10年3月10日第3刷で訂正) (1-12)

削除

上から21行目, (未訂正) ・「ことにより部材の必要径を照査する。」

削除

上から22行目, (平成10年3月10日第3刷で訂正) (1-13)

(1-12)

上から23行目,

削除・訂正

(平成10年3月10日第3刷で訂正) (正)

必要径 D_m は次式にて検討する。相当粗度 K_s は D_m と等しくとればよい。

$$D_m \geq V_o^2 / \{ [6.0 + 5.75 \text{Log}_{10}(H_d / ks)]^2 \cdot \tau_{*sc} \cdot s \cdot g \} \quad (1-13)$$

(1-13) の次行に追加

ここで H_d : 設計水深, s : 河床材料の水中比重

(平成10年8月30日第4刷で訂正)

57 p. 上から 20 行目, ..越流現象は,
(平成 10 年 8 月 30 日第 4 刷で訂正)

$$h_c + D < h_2$$

$$h_c + D > h_2$$

59 p. 上から 2 行目, ..求められる
(平成 10 年 8 月 30 日第 4 刷で訂正)
上から 4 行目, (式 1-20)

「鉄筋構造の場合」は

「無筋構造の場合あるいは鉄筋構造でも分離型の場合」は

(平成 10 年 3 月 10 日第 3 刷で追加・訂正)

$$t = F_s \frac{u_{pm} - h_2 W_0}{\gamma_c - 1} \left\{ = F_s \frac{U_{pm} - h W_0}{r_c - 9.8} \right\}$$

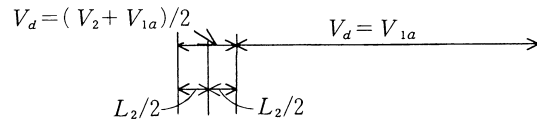
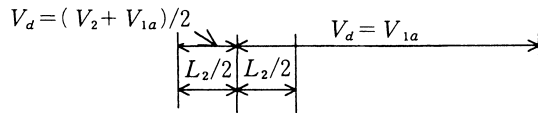
U_{pm} : 水叩きに作用する揚圧力のうち最大の値

$$t = F_s \frac{u_{pm} - h_{1a} W_0}{\gamma_c - 1} \left\{ = F_s \frac{u_{pm} - h_{1a} W_0}{r_c - 9.8} \right\}$$

u_{pm} : 水叩きに作用する揚圧力のうち最大の値

W_0 : 水の単位体積重量 (1.0 t/m³) {kN/m³}

図 1-26 (平成 10 年 3 月 10 日第 3 刷で訂正)



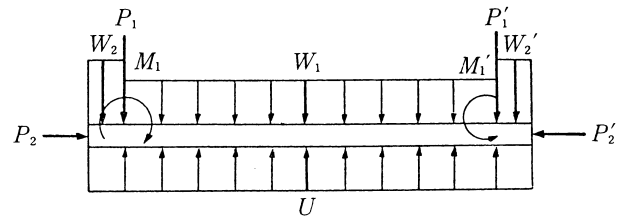
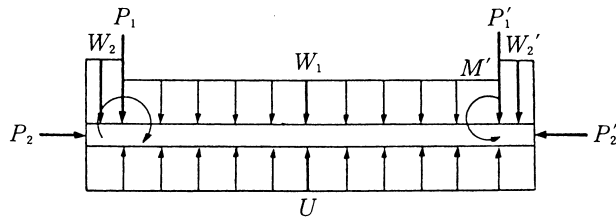
76 p. 下から 5 行目,
(平成 10 年 3 月 10 日第 3 刷で訂正)

砂質土層の場合: $V_{si} = 800 N_i^{1/3}$

砂質土層の場合: $V_{si} = 80 N_i^{1/3}$

92 p. 図 1-45

(平成 10 年 3 月 10 日第 3 刷で訂正)



93 p. 下から 6 行目,
(平成 10 年 3 月 10 日第 3 刷で訂正)

自動車荷重については, 「TL 14, または TL-20」

「TL-25」

103 p. 上から 10~14 行,
(平成 10 年 8 月 30 日第 4 刷で訂正)

「既設の杭基礎構造物に..概ね 20 以上を目安とする。」

削除

105 p. 表 1-25 ケース 1
(平成 10 年 3 月 10 日第 3 刷で訂正)

TL-20

TL-25

149 p. 図 2-2
(未訂正)

$$h_w = 0.00077 V^{1.1} F^{0.5}$$

$$h_w = 0.00077 V \cdot F^{0.5}$$

208 p. 下から 4 行目, ..透水係数が
(平成 10 年 3 月 10 日第 3 刷で訂正)

1×10^{-3} m/s 以下の

1×10^{-3} cm/s 以下の

設計編 [II]

誤

正

50 p. 下から4行目, 式(4-2)
(平成10年3月10日第3刷で訂正)

$$P_h = k \cdot 15 \cdot \gamma (h < 15 \text{ m})$$

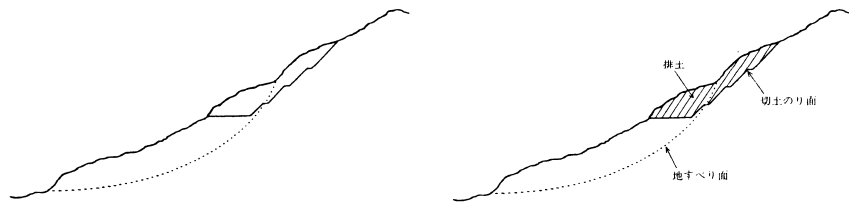
$$P_h = k \cdot 15 \cdot \gamma (h \geq 15 \text{ m})$$

51 p. 上から6行目, 式(4-3)
(平成10年3月10日第3刷で訂正)

$$q_A = \frac{3EI}{fR^2} > P_{tmax}$$

$$q_A = \frac{3EI}{fR^3} > P_{tmax}$$

55 p. 図4-18
(平成10年3月10日第3刷で訂正)



58 p. 上から8行目, ..右辺の U,
(平成10年3月10日第3刷で訂正)

R

N

61 p. 表4-2, 杭の間隔 (m)
(平成10年3月10日第3刷で訂正)

以上

以下

表4-3, (平成10年3月10日第3刷で一部訂正)

一桁繰り上げる。(未訂正)

(正)

区分	短期許容応力度 kgf/cm ² {N/mm ² }		長期許容応力度 kgf/cm ² {N/mm ² }	
	せん断	曲げ	せん断	曲げ
SKK 400 および同等品	1 200{118}	2 100{206}	800{78}	1 400{137}
SM 490 および同等品	1 650{162}	2 850{279}	1 100{108}	1 900{186}

1. 曲げ杭の根入れ長

根入れ長は, 「すべり面における...1.5 倍程度とし」

「 」削除 (未訂正)

式(4-13)

(平成10年3月10日第3刷で誤まって訂正。第1刷・2刷のままだが正しい。)

$$h_b > 1.5 \times \frac{\pi}{\beta_2} \left(\tan^{-1} \frac{\beta_1 - \beta_2}{\beta_1 + \beta_2} + \pi \right)$$

$$h_b > 1.5 \times \frac{\pi}{\beta}$$

$$\beta_1 = \sqrt[4]{\frac{K_1 d}{4EI}}$$

$$\beta = \sqrt[4]{\frac{Kd}{4EI}}$$

$$\beta_2 = \sqrt[4]{\frac{K_2 d}{4EI}}$$

h_b : 杭の根入れ長 (m)

K : すべり面より下部基盤の横方向地盤係数

h_b : 杭の根入れ長 (m)

$K_1 \cdot K_2$: すべり面より上部・下部基盤の横方向地盤係数

61 p. 最下段, I : 杭の断面二次モーメント (m^4/m) I : 杭の断面二次モーメント (m^4)
(平成 10 年 3 月 10 日第 3 刷で訂正)

63 p. 上から 9 行目, (未訂正) I : シャフトの二次モーメント (m^4/m) I : シャフトの二次モーメント (m^4)
上から 15 行目, $\{1.4 \times 10^8 \text{ kN/m}^2\}$ とする. $\{1.4 \times 10^7 \text{ kN/m}^2\}$ とする.

(平成 10 年 3 月 10 日第 3 刷で訂正)

上から 16, 17 行,

「不静定力, …とする。」

削除

(平成 10 年 3 月 10 日第 3 刷で訂正)

上から 18 行目,

…表 4-4 の値を標準…

コンクリート標準示方書

(平成 10 年 3 月 10 日第 3 刷で訂正)

(土木学会) によるもの…

表 4-4 とその下 3 行のただし書き

削除

(平成 10 年 3 月 10 日第 3 刷で訂正)

64 p. 式(4-16), 右辺分子

(平成 10 年 3 月 10 日第 3 刷で訂正)

$$\frac{\sum(W \cdot \cos \theta - U)\tan \phi + \sum C \cdot lP \cdot \sin(\alpha - \theta)}{\sum W \cdot \sin \theta} \quad \frac{\sum(W \cdot \cos \theta - U)\tan \phi + \sum c \cdot l + P \cdot \sin(\alpha - \theta)}{\sum W \cdot \sin \theta}$$

66 p. 表 4-6, グラウトの設計基準強度

{2 353}

{2 354}

同

{2 941}

{2 942}

(平成 10 年 3 月 10 日第 3 刷で訂正)

74 p. 上から 5 行目,

「2. 縦排水路は…ものとする。」

1 行削除

上から 6 行目,

「3. 縦排水路と横排水路」

「3.」を「2.」に変更.

(平成 10 年 3 月 10 日第 3 刷で訂正)

132 p. 下から 6 行目～最下段(4)地震時の受働土圧

削除・訂正

(平成 10 年 3 月 10 日第 3 刷で訂正)

(正)

(4) 地震時の受働土圧

地震時に構造物が安全であるように適切な土圧公式によって算定する。粘性土の地震時の受働土圧を求める方法については不明な点が多いが、現段階では常時の粘性土の土圧の式を便法として用いることができる。

(5) 海底面下の地震時の土圧

海底面下における粘性土の地震時の土圧を算出する場合、海底面においては見かけの震度を用いて土圧を求めるが、海底面下 10 m 以下においては震度を零として土圧を求めてよい。ただし、海底面下 10 m における土圧強度が海底面における値より小さい場合には、海底面における値を用いる。

改訂新版 建設省河川砂防技術規準(案)同解説の内容に対する疑問・質問は、〒113-8430 東京都文京区本郷5-5-18 株式会社 山海堂 第1編集部 「建設省河川砂防技術基準」正誤表係 電話 03(3816)1638 FAX 03(3816)1550 で承ります。